

緑肥作物・景観作物一覧

緑肥作物として利用

※緑肥専用カタログもご用意しておりますので、最寄りの営業所へご用命ください。

パールミレット ネマレット (ADR300)

キタネグサレセンチュウ・サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高く、土壌を選ばず元気に育つ。ソルガムいや地発生圃場でも生育し、C/N比が低く柔かい。



ソルガム グリーンソルゴー (スーパーダン)

初期生育が旺盛。短期間での有機物生産量が多く、露地野菜の前作に適する(40~50日で3~5t/10a)。



エンバク スナイパー

サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い。生育が早く晩夏播きでの年内すき込みが可能なため、春先の農作業に余裕がもてる。耕畜連携にも利用される。



スーダングラス ねまへらそう (スーパーダン2)

キタネグサレセンチュウ・サツマイモネコブセンチュウを抑える。出穂が遅く、長期利用が可能。飼料用途でも利用可能な品種。



ギニアグラス ソイルクリーン

各種ネコブセンチュウ抑制効果が高く、キタネグサレセンチュウ抑制効果も高い。従来のギニアグラスよりも初期生育が早く生育旺盛。



ライムギ R-007 (ウィーラー)

秋播きでキタネグサレセンチュウを抑制する。品種ハイオーツが越冬できない積雪地帯や一般地での秋播き利用に適する。



ソルガム つちたろう (ジャンボ)

サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い。初期生育が旺盛で出穂しにくいヘッドレスタイプ。長期利用で有機物生産量が多い。



アウエナ ストリゴサ (エンバク野生種) ハイオーツ

キタネグサレセンチュウ抑制効果が高い。ジャガイモそうか病やアブラナ科野菜の根こぶ病の発生も軽減する緑肥作物の定番品種。



カラシナ 辛神

辛味成分高含有品種で土壌にすき込むことにより各種土壌病害の発生を軽減する。葉が柔らかく、すき込み後の分解が早い。



クロタラリア ネマックス

各種センチュウに効果がある。皇場の地力増進作物に。



ハアリーバッチ 寒太郎 (サバ) / 雪次郎 (バングヒローサ) / 藤えもん (マツサ) / まめ助 (アモイ)

寒太郎は越冬性に優れる晩生品種。藤えもんまめ助は生育旺盛な早生品種。雑草抑制効果が高く、マメ科のため地力増進にも役立つ。



セスパニア 田助

耐湿性が高いマメ科緑肥で水田転換畑での生育が旺盛。直根性であるため、湿害のある圃場での透水性、通気性改善にも効果的。



緑肥作物の特性と播種期※1

種類(草種) 品種	播種量 (kg/10a)	主な効果 (有機物の供給以外の効果)			主な特性	播種期		
		線虫抑制	窒素固定	草生栽培		寒高冷地	一般地	西南暖地
パールミレット ネマレット (ADR300)	4.0	*			キタネグサレセンチュウ・サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い	6月上旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月下旬~8月中旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月中旬~9月上旬(露地) 5月~9月(ハウス)
スーダングラス ねまへらそう (ADRスーパーダン2)	5.0	*			根葉部の線虫対策に	5月下旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月中旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月上旬~8月中旬(露地) 5月~8月(ハウス)
ソルガム つちたろう (ADRジャンボ)	5.0	*			サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い	5月下旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月中旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月上旬~9月上旬(露地) 5月~9月(ハウス)
ソルガム グリーンソルゴー (ADRスーパーダン)	4.0~5.0				初期生育が良好で、ハウス内の除害効果も高い	5月下旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月中旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月~8月(露地・ハウス)
ソルガム 短尺ソルゴー	4.0~5.0 1.0(条播)				防風・ドリフトガードに。1.5~2.0m前後の程よい草丈。	5月下旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月中旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月~8月(露地・ハウス)
ギニアグラス ソイルクリーン	0.3~0.5(条播) 1.0~1.5(撒播)	*			サツマイモネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウの抑制効果が高い	6月下旬~7月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	6月上旬~8月上旬(露地) 5月~8月(ハウス)	5月中旬~8月中旬(露地) 5月~8月(ハウス)
アウエナ ストリゴサ (エンバク野生種) ハイオーツ	10.0~15.0	*			キタネグサレセンチュウ抑制効果が高い	4月上旬~6月上旬 8月下旬~9月上旬※3	3月~5月 8月下旬~9月中旬 10月中旬~11月上旬	2月下旬~5月上旬 9月 10月下旬~11月下旬
エンバク スナイパー	8.0~10.0	*			サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い	8月下旬~9月上旬※3	8月下旬~9月中旬	9月下旬~10月上旬 (稲田・種子畑など)
エンバク とちゆたか	8.0~10.0 3.0~5.0(撒播)				耐湿性に優れ、防風・雪わらなど間作利用に。	4月上旬~6月上旬 8月下旬~9月上旬※3	3月~5月 8月下旬~9月中旬 10月中旬~11月上旬	2月下旬~5月上旬 9月 10月下旬~11月下旬
ライムギ R-007 (ADRウィーラー)	6.0~8.0 10.0~15.0 (撒生対策)	*		*	秋播:キタネグサレセンチュウ対策 春播:雑草管理・土壌菌に防止に	3月下旬~5月上旬 8月下旬~9月上旬※3 9月中旬~10月中旬	2月下旬~4月下旬 8月下旬~9月中旬 9月下旬~12月上旬	1月下旬~3月下旬 10月~12月
カラシナ 辛神	1.0				辛神には辛味成分が多く含まれており、土壌にすき込むことで土壌菌害による被害(ホウレンソウ葉腐病など)の低減が期待できます。	4月~5月 8月下旬~9月上旬	3月~4月 10月中旬~11月上旬	2月~3月 10月下旬~11月中旬
セスパニア 田助	4.0(条播) 5.0(撒播)	*			耐湿性が強く、乾草等の根肥として有効	6月中旬~7月中旬	5月下旬~7月下旬	5月上旬~8月中旬
オオナギナギサ ゾロ	2.0~3.0		*		春に自然に腐敗する自動マルチ効果により雑草を抑制する	9月	9月中旬~10月中旬	9月下旬~11月上旬
オオナギ らくらくムギ (ADRラマタ)	3.0~5.0(撒) 8.0~10.0(条)	*	*		春播をすることで、ほとんど出穂せず、コンニャクなどの間作利用が可能。	5月中旬~6月下旬※5	4月上旬~6月中旬	3月下旬~5月中旬
クロタラリア ネマックス	6.0~9.0	*	*		各種線虫に効果が高い	7月(露地) 6月~7月(ハウス)	5月下旬~8月上旬	5月上旬~8月中旬 2月下旬~9月下旬 (沖縄・奄美・琉球)
クロタラリア ネマコロリ	6.0~8.0	*	*		サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い	7月(露地) 6月~7月(ハウス)	5月中旬~8月上旬	5月上旬~8月中旬 2月下旬~9月下旬 (沖縄・奄美・琉球)
寒太郎(サババ) / 雪次郎(バングヒローサ) / 藤えもん(マツサ) / まめ助(アモイ)	3.0~5.0	*	*	*	水田・畑地の地力向上、遊牧地の雑草対策に	4月上旬~5月上旬 8月中旬~9月上旬 9月上旬~10月中旬※7	3月上旬~4月上旬 8月下旬~9月中旬 9月中旬~11月上旬	2月中旬~3月下旬 9月 9月下旬~11月下旬

※1 表中の播種期、開花時期は目安であり、天候や地域によって異なる場合があります。各地域の詳細な播種期、開花時期については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
 ※2 海外特出禁止 (農林水産大臣公示有)
 ※3 標高700m以上の高冷地では8月中旬以降の播種が可能です。
 ※4 近くにアブラナ科がある場合は、他草種をお使いください。
 ※5 気象条件により枯れがちな場合もあります。放牧などにはご注意ください。
 ※6 牛が生食で摂取すると、中毒を起すこともあります。放牧などにはご注意ください。
 ※7 越冬利用する場合は、越冬性に優れた「寒太郎」、「雪次郎」をおすすめします。

緑肥作物・景観作物一覧

※緑肥専用カタログもご用意しておりますので、最寄りの営業所へご用命ください。

花を咲かせる緑肥作物は景観緑肥作物とも称され、それらを栽培することで土づくりと景観形成を同時に行うことができます。地域おこしや遊休地の景観美化のためにご活用ください。



景観用としても利用できる緑肥作物

ベルシアンクローバ

まめ小町 品種 (Mame-Komachi)

ダイズシストセンチュウ抑制効果が高く、耐湿性が比較的高い。ピンク色の可憐な花を咲かせ、あたり一面が良い香りに。開花期が長く、蜜源利用にも適する。



レンゲ

水田の地力増進と窒素の減肥が可能。春に綺麗なピンク色の花が咲き、景観緑肥としても楽しめる。



主に景観として利用

スノーミックスフラワー花壇用

多種類の草花をミックスしたブレンド種子。粗放な栽培管理条件で美しい花を咲かせ、長期間いろいろな花を楽しむことができる。



コスモス

センセーションミックス

秋に綺麗なミックス色のコスモス畑を作り出す。初期生育が早く、丈夫で栽培しやすい。



マリゴールド

アフリカントール (品種クラッカージャックダブルミックス)

景観美化のほか、各種線虫抑制効果がある。※栽培日数80日前後が必要です。



ヒマワリ

NSクルナ 品種 (NS Kruna)

草丈は180~200cm程度と大柄であるため有機物補給としても利用できる。5月播きでは播種後60日程度で開花する。



クロタリシア

ネマコロリ

クロタリシア属の中では初期生育が早く、サツマイモネコブセンチュウ抑制効果が高い。マメ科のため地力増進効果も期待できる。



シロガラシ

キカラシ 品種 (メテックス)

初期生育が旺盛なアブラナ科緑肥。黄色の花を一面に咲かせ、景観緑肥にも適する。春播きでは播種後50~60日程度で開花する。



ハゼリソウ

アンジェリア

初期生育が旺盛で紫色の花を一面に咲かせる。地表の被覆が早いので、防砂・土壌流亡対策・雑草抑制効果も期待できる。



景観作物として利用する場合の播種期と開花期※1

種類 (草種) 品種	草丈 (cm)	播種量 (kg/10a)	寒高冷地		一般地		西南暖地	
			播種期	開花期	播種期	開花期	播種期	開花期
スノーミックスフラワー花壇用・1d&入り	50~90	20袋	春秋 5月中旬~7月中旬 —	7月中旬~8月下旬 —	3月下旬~6月下旬 9月上旬~10月中旬	5月下旬~8月下旬 4月中旬~10月中旬	3月下旬~6月下旬 9月上旬~10月中旬	5月中旬~7月上旬 4月中旬~10月下旬
コスモス センセーションミックス	80~120	2.0kg (4L)	春 5月上旬~7月中旬	7月上旬~8月中旬	4月中旬~7月中旬	6月中旬~9月中旬	4月中旬~7月中旬	6月中旬~9月中旬
マリゴールド アフリカントール (品種クラッカージャックダブルミックス)	80~100	1~2L (0.2~0.5kg)	春 6月	8月中旬~9月上旬	5月下旬~7月上旬	8月上旬~9月中旬	5月上旬~7月中旬	7月中旬~9月下旬
ベルシアンクローバ まめ小町 (品種Mame-Komachi)	30~80	2.0~3.0	春秋 4月上旬~5月上旬 9月上旬~10月上旬 ^{※2}	6月上旬~7月上旬 5月中旬~6月上旬	3月上旬~4月上旬 9月中旬~10月中旬	5月中旬~6月上旬 4月中旬~4月下旬	2月下旬~3月下旬 9月下旬~10月下旬	5月 4月
クリムソクローバ くれない	30~60	2.0~3.0	春秋 4月上旬~5月上旬 9月上旬~10月上旬 ^{※2}	6月上旬~7月上旬 5月中旬~6月上旬	3月上旬~4月上旬 9月中旬~10月中旬	5月中旬~6月上旬 4月中旬~4月下旬	2月下旬~3月下旬 9月下旬~10月下旬	5月 4月
ヘアリーベッチ ^{※3} 藤えもん (品種マッサ) まめ助 (品種ナモイ)	30~50 (自然草高)	3.0~5.0	春秋 4月上旬~5月上旬 —	6月上旬~7月中旬 —	3月上旬~4月上旬 9月中旬~11月上旬	5月上旬~6月上旬 4月中旬~4月下旬	2月中旬~3月下旬 9月下旬~11月下旬	4月中旬~5月下旬 4月
ヘアリーベッチ ^{※3} 寒太郎 (品種サパン)	30~50 (自然草高)	3.0~5.0	春秋 4月上旬~5月上旬 9月上旬~10月中旬	6月中旬~7月上旬 5月下旬~6月中旬	3月上旬~4月上旬 9月中旬~11月上旬	5月中旬~6月上旬 5月	2月中旬~3月下旬 9月下旬~11月下旬	5月中旬~6月中旬 5月
レンゲ	30~50	3.0~4.0	秋 8月中旬~9月上旬 ^{※2} (東北南部)	4月下旬~5月中旬 (東北南部)	9月上旬~10月上旬	4月上旬~4月中旬	9月中旬~10月下旬	3月下旬~4月上旬
ヒマワリ サンマリノ (品種NSデュカット)	160~190	1.5~2.0	夏 5月中旬~8月上旬	7月中旬~10月上旬	5月上旬~9月上旬	7月上旬~11月上旬	4月中旬~9月中旬	6月中旬~11月中旬
ヒマワリ NSクルナ (品種NS Kruna)	180~200	1.5~2.0	夏 5月中旬~8月上旬	7月中旬~10月上旬	5月上旬~9月上旬	7月上旬~11月上旬	4月中旬~9月中旬	6月中旬~11月中旬
クロタリシア ネマコロリ	120~200	6.0~8.0	夏 6月~7月 (ハウス) 7月 (露地)	7月下旬~9月中旬 9月上旬~9月下旬	5月中旬~8月上旬 —	7月中旬~9月中旬 —	5月上旬~8月中旬 2月下旬~9月下旬 (沖縄・奄美諸島は、播種後2か月前後)	7月上旬~10月上旬 沖縄・奄美諸島は、播種後2か月前後
シロガラシ キカラシ (品種メテックス)	80~120	2.0~3.0	春秋 4月上旬~5月中旬 —	6月上旬~7月中旬 —	3月 11月中旬~12月上旬 ^{※4}	5月 4月中旬	2月下旬~3月中旬 11月下旬~12月中旬 ^{※4}	4月下旬~5月中旬 3月下旬
ハゼリソウ アンジェリア	60~80	2.0~3.0	春秋 4月上旬~5月中旬 —	6月上旬~7月中旬 —	3月~4月 11月 ^{※4}	5月~6月 4月下旬~5月中旬	2月下旬~3月中旬 11月下旬~12月中旬 ^{※4}	4月下旬~5月中旬 4月上旬~4月中旬

※1 表中の播種期、開花期は目安であり、天候や地域によって異なる場合があります。各地域の詳細な播種期、開花期については、最寄りの営業所にお問い合わせください。

※2 冬期の気象条件によって播種割合が異なります。(多量地帯では減量不可)

※3 寒さが生で摂取すると、中傷を起こすこともあります。放牧などにはご注意ください。

※4 越冬の場合、初期の旺盛な伸長後の降雪等で冬枯れする場合があります。

トウモロコシの病虫害

トウモロコシ苗立枯病、ツマジロコサヨトウについてはP9、15をご参照ください。

タマナヤガ(ネキリムシ)

幼虫の根元を食害する。



- 防除法**
- ダイアジノン粒剤5を散布する。
 - 圃場周囲のイネ科雑草を除草する。

ハリガネムシ

生堆肥施用後に大量発生する場合がある。



- 防除法**
- 生堆肥利用を避ける。
 - フルーザー FS30を種子に塗沫処理する。

ごま葉枯病

温暖多湿で発生し、斑点が生じる。



- 防除法**
- 適正栽植本数を守り、密植を避ける。
 - 耐性品種を利用する。

すす紋病

高湿度低温で多発し雲形の斑点が生じる。



- 防除法**
- 適正栽植本数を守り、密植を避ける。
 - 耐性品種を利用する。
 - 適期播種に努めるとともに、発生が認められた場合は早めに刈り取る。

根腐病

糊～真熟期に枯上り、雌穂が垂れ下がる。



- 防除法**
- 排水不良、未熟堆肥多投で発生しやすい。
 - 耐性品種を利用する。

黒穂病

連作で発生しやすく、稈や雌穂に発生する。



- 防除法**
- 多発した場合、3年以上の輪作。
 - 罹病体を出来ただけに残さない。

さび病・南方さび病

葉、葉鞘に赤褐色の小点(さび)が生じる。



- 防除法**
- 罹病後の収量低下が甚だしいため、耐病性品種を利用する。

トウモロコシの生育障害

湿害症状

多雨の影響で湿害が生じた場合は速やかに追肥を行う。



低温障害

発芽後に低温に遭遇すると葉にアントシアニンが生じ、紫色を呈するが、一時的な症状で直ちに回復する。



ソルガムの病害

条斑細菌病

葉、葉鞘、稈及び子実に発生する。葉では幅数ミリの赤褐色すじ状に病斑が葉の葉脈にそって現れる。スーダン型ソルガムとスーダングラスで発生しやすい。



- 防除法**
- スーダン型ソルガムとスーダングラス以外の品種か、耐病性のスーダングラス「リッチスーダン」「品種ロールスイートBMR」を利用する。
 - 種子消毒を行う。

すす紋病

葉に鉛色の紡錘形病斑が現れる。その後進行すると細長い紡錘形又はレンズ形になる。スーダングラスで発生しやすい。



- 防除法**
- 発生した圃場への連作を避ける。肥料切れにならないように十分に施肥する。スーダングラス以外の品種か、耐病性のスーダングラス「リッチスーダン」「品種ロールスイートBMR」を利用する。

紫斑点病

葉、葉鞘、稈及び穂に発生する。初め紫褐色又は褐色の微小点で、これが直ちに密度を増して斑点状になる。



- 防除法**
- 刈り遅れないように注意する。耐病性品種「品種短尺ソルゴー」「リッチスーダン」「品種ロールスイートBMR」を利用する。

トウモロコシ畑・牧草地に発生する雑草

雑草初期写真：浅井元朗

イチビ



- 防除法**
- ゲザノンゴールドの土壌処理が有効。遅れて発生したものはシャドー水和剤、バサグラン液剤、アルファード液剤、ブルーシアフロアブルの茎葉処理で防除。

ヨウシュチョウセンアサガオ



- 防除法**
- ゲザノンゴールドの土壌処理が有効。遅れて発生したものはバサグラン液剤の茎葉処理で防除。

ショクヨウガヤツリ(キハマスゲ)



- 防除法**
- シャドー水和剤での茎葉処理で防除できる。

ハリビユ



- 防除法**
- ゲザノンゴールドの土壌処理が有効。遅れて発生したものはバサグラン液剤、アルファード液剤、ブルーシアフロアブルの茎葉処理で防除。

ワルナスビ



- 防除法**
- 土壌処理や茎葉処理での防除が困難でトウモロコシ収穫後の再生株にラウンドアップマックスロードを茎葉散布[※]すると翌年の発生をある程度抑えられる。

ワルナスビ退治のワンポイントアドバイス!

ワルナスビは地下茎と種子で増殖し、除草剤による防除が難しい難防除雑草です。防除法としては、①ワルナスビの茎葉展開時にラウンドアップマックスロードを散布し生育を抑制する。②スーダングラスや青葉ミレットなど夏作の長大作物を散播で栽培し日光を遮断し生育させない。③エンバクの晩夏播きや秋播き栽培で秋の生育や春の萌芽を抑制する。というように除草剤と耕種防除方法を組合わせてワルナスビの根を弱らせ枯死させましょう。圃場の周辺部に繁茂するワルナスビには、高濃度のラウンドアップマックスロード散布や、刈り払いを行い種子による飛散・増殖を防止してください。

セイウヒルガオ



- 防除法**
- 土壌処理や茎葉処理での防除が困難でトウモロコシ収穫後の再生株にラウンドアップマックスロードを茎葉散布[※]すると翌年の発生をある程度抑えられる。

オオオナモミ



- 防除法**
- ゲザノンゴールドの土壌処理が有効。遅れて発生したものはバサグラン液剤、アルファード液剤、ブルーシアフロアブルの茎葉処理で防除。

アレチウリ



- 防除法**
- ゲザノンゴールドの土壌処理が有効。遅れて発生したものはバサグラン液剤またはワンホーザ乳剤、アルファード液剤の茎葉処理で防除。

アメリカヌハウズキ



- 防除法**
- ゲザノンゴールドの土壌処理で抑制できるが、遅れて発生した株にはアルファード液剤やブルーシアフロアブルの茎葉処理を行う。

ガガイモ



- 防除法**
- トウモロコシ収穫後の再生株にラウンドアップマックスロードを茎葉散布[※]すると翌年の発生をある程度抑えられる。

ジョンソングラス



- 防除法**
- ワンホーザ乳剤の茎葉処理(3～5葉期まで)が有効。生育が進むと効果がない。トウモロコシ収穫後の再生株にラウンドアップマックスロードを茎葉散布[※]すると翌年の発生をある程度抑えられる。

ギシギシ



- 防除法**
- ギシギシの葉の展開時にハーモニーDFを散布して駆除する。または、草地更新時にラウンドアップマックスロードを散布し駆除する。

シバムギ



- 防除法**
- 地下茎で繁殖する強害雑草。ラウンドアップマックスロードを散布し駆除する。

オオブタクサ



- 防除法**
- 種子で繁殖する強害雑草。生育初期にバサグラン液剤、アルファード液剤、ブルーシアフロアブルを散布し駆除する。

※ラウンドアップマックスロードの適用情報をご確認の上、ご使用ください。

飼料用トウモロコシの畑に発生する強害雑草と有効な除草剤

雑草名	除草剤	処理方法			効果※2
		土壌処理	茎葉処理	収穫後の※1 茎葉処理	
イチビ	ゲザノンゴールド	☆			○
	アルファード液剤、シャドー水和剤、 バサグラン液剤、ブルーシアフロアブル		☆		◎
ヨウシュチョウセンアサガオ	ゲザノンゴールド	☆			○
	バサグラン液剤		☆		◎
ショクヨウガヤツリ	シャドー水和剤		☆		◎
ハリビユ	ゲザノンゴールド	☆			○
	アルファード液剤、バサグラン液剤、 ブルーシアフロアブル		☆		◎
	ラウンドアップマックスロード			☆	◎
ワルナスビ	ラウンドアップマックスロード			☆	●
ヒルガオ類	ラウンドアップマックスロード			☆	●
オオオナモミ	ゲザノンゴールド	☆			○
	アルファード液剤、バサグラン液剤、 ブルーシアフロアブル		☆		◎
	ラウンドアップマックスロード			☆	◎
アレチウリ	ゲザノンゴールド	☆			○
	アルファード液剤、バサグラン液剤、 ワンホープ乳剤		☆		◎
マルバルコウ	ゲザノンゴールド	☆			○
	バサグラン液剤		☆		◎
	ゲザノンゴールド	☆			△
イヌホオズキ、 アメリカイヌホオズキ	アルファード液剤、ブルーシアフロアブル		☆		◎
	ラウンドアップマックスロード			☆	◎
ガガイモ	ラウンドアップマックスロード			☆	●
ジョンソングラス	ワンホープ乳剤		☆		△
	ラウンドアップマックスロード			☆	●
メヒシバ、ヒエなどの イネ科雑草	ゲザノンゴールド	☆			◎
	エコトップP乳剤、モーティブ乳剤、 ラッソー乳剤	☆			◎
	アルファード液剤、ブルーシアフロアブル、 ワンホープ乳剤		☆		◎
イヌビユ、シロザ、タデ、 ツユクサなどの広葉雑草	ゲザプリムフロアブル	☆	☆		◎
	エコトップP乳剤、ゲザノンゴールド、 モーティブ乳剤	☆			◎
	バサグラン液剤、ブルーシアフロアブル、 ワンホープ乳剤		☆		◎
	アルファード液剤		☆		◎ ツユクサには効果が劣る

※1：ラウンドアップマックスロードの適用情報をご確認の上、ご使用ください。
 ※2：◎枯殺が期待できる。○生育抑制が期待できる。●地下部減少が期待できる。△侵入初期には効果があるが、蔓延後は効果が低い。☆登録あり

除草剤をピンポイントで効かせるコツ！

**※1 砕土して
均等な畑作りがポイント**

除草剤（土壌処理剤）の効果を発揮させるポイントは、
砕土と播種後の鎮圧を行い、
土壌の薬剤処理層を均一にすることです。
薬剤処理層が均一でないとその隙間から雑草が芽を出します。

土を細かく、均一にする事で除草剤の薬剤処理層も均一になる
⇒除草剤の効果が発揮される！

土壌表面が不均一（砕土不足・鎮圧不足）だと薬剤処理層も不均一になる
⇒除草剤の効果が発揮されない
雑草がたくましく発生しやすい！

**※2 除草剤の
量を守りましょう！**

除草剤は10a当たり散布する薬量を
守ることが大切です。
散布する際は製品の記載事項を
確認しましょう。

除草剤の量を守りましょう！

**※3 除草剤の
混用使用に注意！**

除草剤の種類によっては混用使用すると
薬害を起こすことがあります。
生育抑制や条件によっては枯死など、
飼料作物の生産に影響を及ぼす場合が
ありますのでご注意ください。

除草剤の混用により
薬害がでた
デントコーン

除草剤

作物名	除草剤	製品規格	適用雑草	使用時期	使用量（/10a）	希釈水量（/10a）	使用方法	有効成分と総使用回数
飼料用トウモロコシ	ラッソー乳剤	500ml	一年生雑草	は播種後出芽前	300～600ml	100ℓ	全面土壌散布	アトラロール（1回）
	デュアルゴールド	250ml	一年生イネ科雑草	本葉1～2葉期 （イネ科雑草2葉期まで）	70～100ml	70～100ℓ	全面土壌散布	メトラクロロール及び s-メトラクロロール（1回）
			一年生雑草	は播種後出芽前 （雑草発生前）	70～130ml			
	ゲザプリムフロアブル	1ℓ	一年生雑草	は播種後～とうもろこし 2～4葉期まで	100～200ml	50～100ℓ	全面土壌散布及び 雑草茎葉散布	アトラジン（1回）
	ゲザノンゴールド	1ℓ	一年生雑草	マルチ前・は播種前 （雑草発生前）	140～260ml	70～150ℓ	全面土壌散布	アトラジン（1回）、 メトラクロロール 及びs-メトラクロロール（1回）
				は播種後発芽前 （雑草発生前）		70～100ℓ		
				生育期 （とうもろこし2～4葉期）				
	ラクサー乳剤	500ml, 5ℓ	一年生雑草	は播種後出芽前 （雑草発生前）	400～600ml	100ℓ	全面土壌散布	アトラロール（1回）、 リニエロン（1回）
	エコトップP乳剤	500ml	一年生雑草	は播種後出芽前 （雑草発生前）	400～600ml	100ℓ	全面土壌散布	ジメタナミド及び ジメタナミド（1回）、 リニエロン（1回）
	モーティブ乳剤	500ml	一年生雑草	は播種後～ とうもろこし2葉期 （イネ科雑草2葉期まで）	200～400ml	100～150ℓ	全面土壌散布	ジメタナミド及び ジメタナミド（1回）、 ベンディメタリン（1回）
	ゴーゴーサン乳剤	500ml	一年生雑草	は播種後出芽前 （雑草発生前）	200～400ml	70～150ℓ	全面土壌散布	ベンディメタリン（1回）
	シャドー水和剤	100g	一年生及び 多年生広葉雑草	本葉2～5葉期 （とうもろこし3～5葉期）	50～75g	100ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	ハロスルフロメチル （1回）
			キクイモ	キクイモ生育期 （とうもろこし5葉期）				
	バサグラン液剤	500ml	一年生雑草 （イネ科を除く）	生育期 但し収穫50日前まで	100～150ml	70～100ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	ペンタゾン（1回）
	アルファード液剤	500ml 3ℓ	一年生雑草	とうもろこし3～5葉期、但し、 収穫45日前まで	100～150ml	100～150ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	トブラメゾン（1回）
	ブルーシアフロアブル	500ml	一年生雑草	とうもろこし3～5葉期、但し、 収穫45日前まで	40～50ml 50～75ml	通常散布50～100ℓ 少量散布25～50ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	トルビラート（1回）
	ワンホープ乳剤	500ml	一年生雑草、 多年生イネ科雑草	とうもろこし3～5葉期、但し、 収穫30日前まで	100～150ml	70～100ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	ニコスルフロ（1回）
ソルガム	ハーモニ DF	10g	ギンギシ類	新緑7日前まで （雑草生育期）	2～4g	通常散布50～100ℓ 少量散布25～50ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	デフェンスルフロメチル （1回）
				飼料用とうもろこし 2～4葉期 （雑草生育期）	2g			
	ラウンドアップ マックスロード	200ml 500ml 1ℓ 5.5ℓ	一年生及び 多年生雑草	飼料用とうもろこし 出芽前まで （雑草生育期）	200～500ml	通常散布50～100ℓ 少量散布25～50ℓ	雑草茎葉散布	グリホサート（2回以内）
	ゲザプリムフロアブル	1ℓ	一年生広葉雑草	は播種後雑草発生前～晩期	100～200ml	100ℓ	全面土壌散布及び 雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	アトラジン（1回）
牧草	ゴーゴーサン乳剤 ※スーダングラスは含まない	500ml	一年生雑草	ソルガム3葉期 （雑草発生前～発生後期）	300ml	70～100ℓ	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	ベンディメタリン（1回）
	バサグラン液剤	500ml	一年生雑草 （イネ科を除く）	生育期 但し収穫30日前まで	100～150ml	70～100ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	ペンタゾン（1回）
	ラウンドアップ マックスロード	200ml 500ml 1ℓ 5.5ℓ	一年生雑草	播種前またはは播種前まで	200～500ml	通常散布50～100ℓ 少量散布25～50ℓ	雑草茎葉散布	グリホサート（2回以内）
	バンベルD液剤	1ℓ	ギンギシ	秋期最終刈り取り後30日以内	75～100ml	100ℓ	雑草茎葉散布	MDBA（1回）
	ハーモニ DF	10g	ギンギシ類	播種21日前まで （雑草生育期）	3～5g	通常散布50～100ℓ 少量散布10～50ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	デフェンスルフロメチル （1回）
				新播草地定植後、 但し、播種21日前まで	0.5～1g			
	アージラン液剤	500ml	ギンギシ類及び キク科雑草	秋～春期（9～5月） 但し、播種14日前まで	400～600ml	80～100ℓ	雑草茎葉散布 又は全面散布	アシュラム（1回）
ソルガム	ラウンドアップ マックスロード	200ml 500ml 1ℓ 5.5ℓ	一年生及び 多年生雑草	播種前～雑草発生前	200～500ml	少量散布25～50ℓ 少量散布5～50ℓ	雑草茎葉散布	グリホサート（3回以内）
			多年生イネ科雑草	最終刈り取り後・雑草生育期	500～1,000ml	50～100ℓ		

殺虫剤・忌避剤

作物名	薬剤名	製品規格	適用病害虫・害獣名	使用量	処理方法		有効成分と総使用回数
					使用時期	使用方法	
飼料用トウモロコシ	ルミビア FS	250ml	ツマジロコサトウ	乾草種子1,000kg当り原液1.5～2.5ml	は播種前	塗抹処理	クロラントラリブロール（1回）
	デルフィン顆粒水和剤	500g	ツマジロコサトウ	500倍、100～300ℓ/10a	発生初期但し、収穫前日まで	散布	BT（一）
	ジャックポット顆粒水和剤	100g、500g	ツマジロコサトウ	500倍～1,000倍、100～300ℓ/10a	発生初期但し、収穫前日まで	散布	BT（一）
	バダンス G水溶剤	100g、500g	ツマジロコサトウ	1,000～1,500倍、100～300ℓ/10a	収穫21日前まで	散布	カルタップ（2回以内）
			アワノメイガ	1,000倍、100～300ℓ/10a	収穫21日前まで	散布	カルタップ（2回以内）
	ダイアジノン粒剤 5	3kg	タマナガ	6kg/10a	収穫60日前まで※	散布	ダイアジノン（2回以内）
	クルザー FS30	250ml	ハリガネムシ類、タネバエ	乾燥種子1kg当り原液6ml	は播種前	塗抹処理	チアマトキサム（1回）
	キヒゲン	100g、500g	カラス、キジ、ハト	乾燥種子重量の1%	は播種前	種子粉衣	本剤1回、 チウラム（2回以内）
	キヒゲン R-2 フロアブル	50ml、 200ml、 1ℓ	苗立結実、カラス、キジ、ハト、キジバト、ムクドリ、スズメ	乾燥種子1kg当り原液20ml	は播種前	塗抹処理	本剤1回、 チウラム（2回以内）
			カラス、キジ、ハト、キジバト、ムクドリ、スズメ				

※：例年、害が発生している場合は播種後1か月以内の散布をおすすめします。
 （注1）農薬の使用に当たっては、適用作物、使用時期、使用濃度、使用量等を遵守するとともに、農業容器のラベルに記載された事項等を十分に読み、
 農業安全使用基準に沿って、安全かつ適正に使用してください。
 （注2）使用に当たっては、農業改良普及センター等の指導機関にご相談ください。
 （注3）本表は2024年8月現在の農業登録により作成しました。

種子の形状

飼料作物・牧草・緑肥等で使用される種子の写真です。
種子の大きさは、種類(草種)、品種によっても異なります。
また、同じ品種でも採種地の栽培条件、天候により、大きく変動する場合があります。
品種によって、薬剤を粉衣しているものと、粉衣していないものがあります。
品種・生産地・年産・ロットによって、薬剤の種類が異なる場合があります。

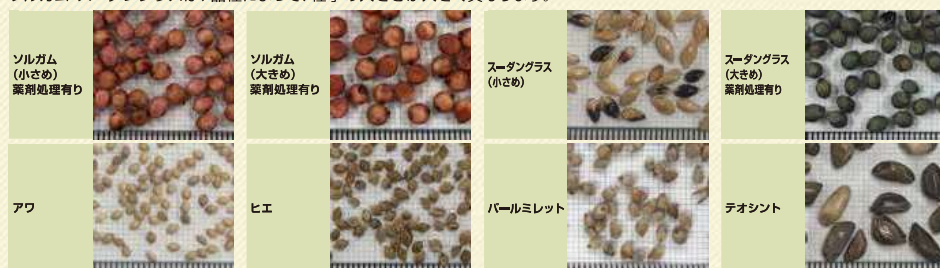
トウモロコシ

トウモロコシ種子は、同じ品種でもいろいろなサイズがあります。
トウモロコシ種子のサイズ：Sサイズは約4,000粒/kg以上、Mサイズは約3,000～4,000粒/kg、Lサイズは約3,000粒/kg未満
トウモロコシ種子の形状：Rは丸種子、Fは平たい種子。 ※ロットによって、丸種子、平たい種子が混在する場合があります。

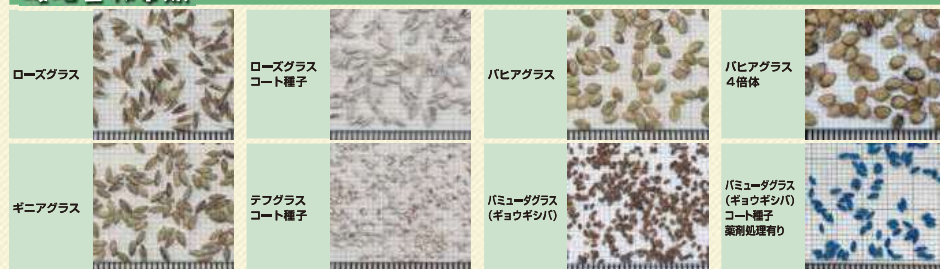


ソルガム・スーダングラス、他青刈作物

ソルガム・スーダングラスは、品種によって、種子の大きさが大きく異なります。



暖地型牧草類



ムギ類

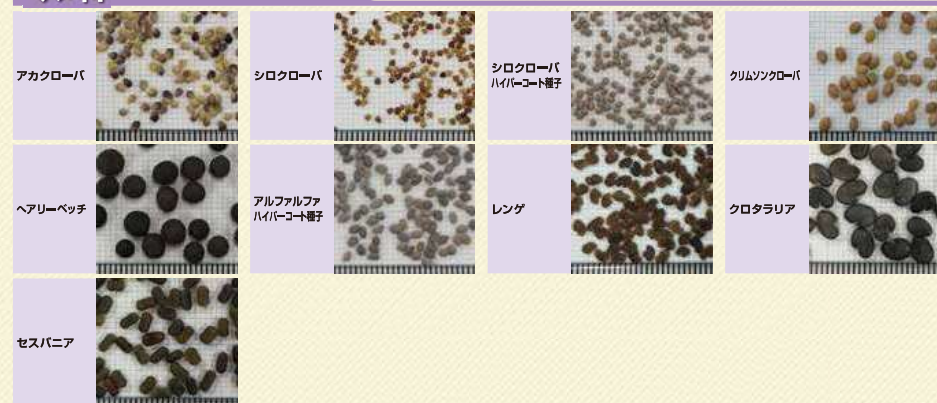


寒地型イネ科牧草類

(方眼・目盛りは各1mm)



マメ科



その他



※海外持出禁止（農林水産大臣公示有） 品種たちモンは2025年8月頃発売予定、スノーデント凄夏は2025年春発売予定、品種夏疾風、ノースフェストは2024年発売、ライコッコ4、品種デトンⅡは2023年発売。
◎はコート種子

青文字は雪印種苗株式会社が育成した品種であることを表しています。太文字は弊社オリジナル品種です。